

## 一般花壇の部

### 総 評

審査は8月2日～4日の3日間行いました。記録的な豪雨や猛暑にもかかわらず、これまで以上に鮮やかに咲き揃った、みごとな花壇に出会うことが出来ました。また、50回目のコンクールにふさわしく、極めてレベルの高い激選でした。そしてなにより、花壇を管理されている皆様の並々ならぬ熱意や技術の高さにとても感動しました。日頃の献身的な活動に対し、深く深く感謝申し上げます。

大雨の湿害を避けるため、花壇に傾斜を持たせて水はけを良くしたり、花壇の回りをグランドカバープランツで縁取りして土の流出を防いだり、花の生育を抑えぎみに管理して長く楽しんだり、秋に開催される地域の主要行事にも花壇を楽しんでもらえるように、花の種類を選びなおすなど、優れた知恵と工夫が随所で実践されていました。

ステップアップ研修で培われた管理技術がしっかりと定着し、おしゃれな色使いも含めて、花壇のレベルが格段に進歩していることや、花壇管理で出た植物残渣を完熟堆肥にして土づくりや株間のマルチに使うなど、SDGs に沿った取り組みも印象的でした。

頭取さんやグリーンキーパーさんが中心となり、さらに、自治会や老人会、児童クラブなどの力を結集した花壇づくりも見られ、地域の活性化に貢献する花のまちづくりの大切さを改めて感じさせていただきました。

なにより、これからの50年もとても楽しみなコンクールでした。

### 最優秀賞評

最優秀賞を受賞した砺波市の『東野尻花と緑推進協議会』の花壇の前に立った時、緑の元気さに感動しました。

堆肥や土壌改良資材による土作り、暑さに強い花の選択、きめ細かな切り戻しなど、管理技術の高さが強く感じられました。明るい色のグランドカバープランツが効果的に配置され、長く楽しめる爽やかな花壇に仕上がっていました。

水車小屋を背景に「四季に花咲く ふれあい花壇」をテーマとしてデザインされ、落ち着いた色調ながら花々が鮮やかに咲き誇っていました。まさに、砺波地方の原風景を詩情豊かに表現されていました。

また、子供達が間近で花を楽しめるように通路を広めに取られ、花壇の中を自由に歩き回れる工夫がなされていました。また、その通路には白い小石が敷き詰められていて花壇全体のデザインを際立たせる効果もありました。

(審査委員長 山本 良孝)